

## Composer バージョン 5.6 リリースノート

Copyright 2017, Symetrix, Inc.  
November, 2017年 11月リリース

株式会社オーディオブレインズ  
2017年 11月吉日

### この案内の概要

イントロダクション

- I) 旧バージョンとの比較
- II) 修正された不具合
- III) インストレーションノート
- IV) ファームウェア V5.6 へのアップグレード
- V) 以前の Composer サイトファイル更新の際の注意事項
- VI) Dante、ネットワークスイッチ使用とリダundantモードの切り替え

### イントロダクション

この書類は Composer version 5.5 のユーザーのための書類です。もし新たな Composer ユーザーの場合 [Symetrix web site](#). より前バージョンのリリースノートを探すことも可能です。(英文のみ)

### I) 旧バージョンとの比較

#### V5.6 の新機能 (V5.5 との比較)

Composer 5.6 は機能を向上させるためのマイナーリリースです。

- 1) 新たにUSBオプションカードをサポートしました。8x8までのUSBオーディオ入出力をEdge、Radius AEC、Radius 12x8EXに追加することができます。
- 2) 新たにハードウェアデバイス“Control Server”をサポートしました。このデバイスによりスマートフォンやタブレット、PCから新たな形でDSPをコントロールできるようになります。詳細は別途ご案内させていただきます。
- 3) ARC-Web、ブラウザーベースソフトウェアの自己診断機能 (Diagnostic) にてDante関係の情報も表示されるようアップデートされました。
- 4) 1DSPユニットにて完全サポートできるShureデバイスの数が2→4に増化しました。
- 5) VoIPカードが特定のCiscoデバイスで不具合を起こすというエラーを修正
- 6) AECアルゴリズムを修正し、条件を満たすとノイズが発生する部分を修正
- 7) サイトファイルをDSPからPullし、それを保存しないまま終了してしまった場合に一部プリセット情報が無くなるバグを修正
- 8) Feedback fighterのLock情報をサイトファイル上で保存できないバグを修正
- 9) Juice Goose社の電源制御器をコントロールするスーパーモジュールを追加
- 10) 様々なマイナーエラーを修正。

## II) 報告された、また残っている不具合

### その他の報告不具合

- 1) リダンダンシーモードの設定変更を行った場合、Dante音声信号をパスできなくなる不具合が報告された。詳細は、VI) Dante、ネットワークスイッチ使用とリダンダントモードの切り替え、を参照
- 2) 全てのデバイスをミュートするプリセットを使用する場合、Attero Tech社、その他サードパーティーデバイスの機器はミュートされない。SymtrixのDanteトランスミッターはミュートされるように修正、つまりSymtrixユニットからの音声はミュート状態になり、殆どのケースでサードパーティー機器もミュート状態になる
- 3) xIn, xOut, xIOもしくはサードパーティーDanteユニットが初めにネットワークに接続された場合、Composerにより認識されるのに、最長2分程時間がかかってしまう。また接続を解除した場合も、それらの機器が最大1分間程Composer上に残って表示される
- 4) Composer上で、幾つかの制御がSymVueパネルに反映されない。詳細はヘルプファイル内のSymVueトピックを参照（英文）
- 5) SymVueで大規模の複雑なコマンドを設定する場合、処理に時間がかかる
- 6) 大規模なマトリクスにて100プリセット以上を使用する場合、処理速度が低下する
- 7) SymVueでShure社のマイクロホン制御を含むプログラムを作成した場合、処理速度が落ちる。  
Shure社のマイクロホンのコントロールを最小限にすることでパフォーマンスレベルを維持可能
- 8) 稀にSymVueパネルとコントロールスクリーンのディスプレイ表示と数値に差がある。例として、British EQの周波数表示でコントロールスクリーンが200,000Hzを示す場合、パネル側では200,002Hzと表示される。これらの際は数値上見て取れるが、実際は0.002%未満の相違のため、無視しても全く問題にならない
- 9) オクターブとQ表示を変更できるEQモジュールを使用する場合、SymVueパネルではオクターブ設定にしているも常にQの表示になってしまう。エクスポート時に作られた設定が反映されるので、その後表示単位を変えてもそれが反映されなかった。解決策としてはQの値で設定したフィルターはQ表示のまま変更しないようにすることで解決可能
- 10) 背景イメージをコントロールスクリーンで使う場合、背景イメージを選択してしまい、操作したいコントロール項目が触りにくい。避けるためには背景イメージを右クリックにてロックし、Altキーを押しながらコントロール項目の設定を行ってください
- 11) DTMF（プッシュ方式の電話機）デコーダーモジュールでDTMFシークエンスがプリセットに保存されない。しかし、それらの設定はセッティングファイルには保存される
- 12) レベルメーターが対応するフェーダー無しにコントロールスクリーンに設置された場合、正常にアップデートされない。解決策としてはフェーダーも同時に設置すること
- 13) DanteルーティングやセッティングがAudinate社のDante Controllerソフトウェアによって書き換えられた場合、幾つかの機能が反映されないことがある。Dante Controllerによっての書き換えはComposer内の書き換えとぶつかり合う可能性がある。最良案としては、Dante Controllerによる設定の書き換えやDanteハードウェアのリポートを行わないこと。モニタリングやトラブルシュートのツールとしてのみ使用の方が良い
- 14) 最大80のDanteデバイスが1システム内に混在可能に。SymtrixのデバイスのみではなくサードパーティーのDanteデバイスも含む。もし80以上のDanteデバイスが1システム内に存在する場合、ユニットのロケーションエラーが発生する

- 15) ARC-WEBダイアラーで、特別に長いストリングを設定したスピードダイヤルが組まれた場合（トータル数千の値）、ダイアラーが正常に動作しないことがある。想定される使用をすればこのような自体は起こらない
- 16) xI04デバイス用のDante Kernelファームウェアをアップグレードする場合、Danteネットワーク上に大量のDanteデバイスがあると失敗することがある。しかし、バージョンの確認をすると実際は成功している。エラーメッセージを表示せずにアップグレードする場合、xI04デバイスを1台ずつ、1台のDSPに接続しアップグレードを行う必要がある
- 17) セキュリティソフトが作動している場合、稀にWebモニタリングが正常に行えない可能性がある。その場合セキュリティソフトをOffにするかユニットのIPアドレスをセーフリストに追加する必要がある

## III) インストレーションノート

既に導入済みの設備の機材をアップグレードする場合、下記の手順を推奨します。

1. **現在のサイトファイルを保管していることを確認してください。**（拡張子 .symx のファイル）。既にPCに保存されている場合、2に進んでください。サイトファイルを保管していない場合、以前のComposerソフトウェアにて機材と通信し“Go On-line (Pull from Unit)”を行い、ユニットからサイトファイルを引き出して保存してください。
2. ‘Upgrade Firmware’ にいき、automatic configuration 機能をオフにし、‘Stored Site File’のみをクリックし、‘Erase Memory’ をクリックします。その後 Erase を再度クリックしてください。接続されている機器全てに同じ手順を行ってください。
3. 下記の手順でファームウェアをアップグレードして下さい。
4. お持ちのサイトファイルをハードウェアにプッシュしてください。Composer 5.6を開き>Go On-line (Push Design to Hardware)（もしくは F4 を押す）。

上記の手順でハードウェアのDSPコードとComposerのアプリケーションコードが同じになり、システムの正常動作が保証されます。

バージョン 5.6 は以前のバージョンとは別のロケーションに保存されます。バージョン 5.6 は以前のバージョンとは干渉しないよう設計されています。バージョン 5.6 は以前のバージョンと PC 内に共存可能です。ただしハードウェアのファームウェアバージョンと Composer は正常な通信を確保する為同一バージョンでないといけません。ファームウェア-ソフトウェア間でバージョンが異なる場合、アラートが表示されます。

## IV) ファームウェア V5.6 へのアップグレード

**重要:** Composer バージョン 5.6 を使用するにあたって、接続する機器のファームウェアバージョンが最新になっている必要があります。このソフトウェアバージョンアップグレード以降手にする機材は最新バージョンになっているはずですが、しかし、もし導入済みの機材と通信する場合はファームウェアをバージョンアップする必要があります。

最新のソフトウェアダウンロードは Symetrix 社 web サイト、もしくはオーディオブレインズのダウンロードページよりダウンロード可能です。

### ファームウェアアップグレード：自動更新

1. 下記のインストレーションノートを参照ください

2. Composer 5.6 をダウンロードすると必要なファームウェアも同時にダウンロードされます
3. インストールされた最新バージョンの Composer を開いてください
4. 通常通りハードウェアを接続してください。アップグレードの最中は**パワーアンプやスピーカーは電源をオフするか、接続を外してください**
5. 接続する全てのハードウェアの情報を含むサイトファイルを持っている場合、それを開き、7に進んでください
6. 各ハードウェアを **Hardware->Locate Hardware** からソフトウェア上に接続してください
7. **Hardware->Upgrade Firmware** を選択してください。 **Auto Upgrade** ボタンを押してください。これによりサイトファイル内の全てのハードウェアのファームウェアの書き換えが行われます。

もし上記手順で問題が発生した場合再度同じ手順を繰り返してください。  
解決しないようであれば下記の手順でマニュアルアップグレードをお試しください。

### ファームウェアアップグレード：マニュアル更新

1. Composer 5.6 をダウンロードしてください。ダウンロードすると必要なファームウェアも同時にダウンロードされます
2. インストールされた最新バージョンの Composer を開いてください
3. 通常通りハードウェアを接続してください。アップグレードの最中は**パワーアンプやスピーカーは電源をオフするか、接続を外してください**
4. **Hardware->System Manager** を選択してください。 **Hardware** タブを開いてください。必要であればネットワーク設定を変更してください
5. アップグレードが必要なハードウェアを選択し、**Upgrade Firmware** ボタンを押してください
6. Composer Firmware File の下の **Upgrade** ボタンを押してください。オープンファイルダイアログが現れ、ファームウェアファイルの参照が可能です。デフォルト設定では、C:\Program Files (x86)\Symetrix\Composer 5.6\Upgrade folder を参照します。正しいファイルを参照し 'Upgrade' を押してください。ダイアログボックスを閉じてください。
7. 複数のハードウェアのバージョンアップが必要な場合は5、6の手順を繰り返してください。

### xIn 12, xOut 12, xIn 4, xOut 4, xI/O 4x4 のファームウェアアップグレード

ハードウェアにサイトファイルをプッシュする場合、ファームウェアバージョンが異なるとアラートが表示されます。 xIn/xOut/xI/O デバイスのファームウェアバージョンアップに関しては、下記の通りの手順を実行してください。

1. Composer 5.6 をダウンロードしてください。ダウンロードすると必要なファームウェアも同時にダウンロードされます
2. xIn/xOut/xI/O をいつも通りの手順で接続、認識させてください。デバイスは必ず Dante ネットワークにて Edge、Radius、もしくは Prism のどれかに接続されている必要があります。この接続によりアップグレードの必要性をハードウェアが認識します。
3. 既に xIn/xOut ユニットのロケーションが設定されているサイトファイルをお持ちの場合7に進んでください
4. 新しいサイトファイルを作り DSP ユニット、他のアップグレードが必要なユニットを追加してください
5. それぞれのユニットをアップグレードする場合、ユニット上で右クリックし、**Locate Hardware** を選択してください。 テーブル内からデバイスを探し、クリックし **Hardware Unit** を選択し閉じてください
6. xIn/xOut/xI/O ユニット上で右クリックし **Unit Properties** を選択してください
7. **Upgrade Firmware...** ボタンを押してください。 Composer は自動的に User もしくは Kernel firmware がアップグレードを要求しているのか判断します。その後 Composer の適切なバージョンを選択します。カスタムバージョンを選択する場合、Change Version ボタンを押し、アップグレード

に必要な kernel もしくは user file を選択してください。この手順は専門スタッフ指導のもと行ってください。アップグレードファイルのファイルネームはバージョンを示唆しています。

**Upgrade Firmware** ボタンを押しアップグレードしてください。

8. 7-8 の手順をデバイス毎に繰り返してください

## RS-485 デバイスのファームウェアアップグレード

新しいファームウェアのリリースはモジュラーARC ファミリー、ARC-2e などの新しいファームウェアバージョンも含まれます。新しいファームウェアバージョンがリリースされる場合、リリースノートセクションに内容が記載されます。RS-485 デバイスのファームウェアアップグレードは下記の手順に従ってください

### 方法 1 - サイトファイルを使用

1. Composer 5.6 をダウンロードしてください。ダウンロードすると必要なファームウェアも同時にダウンロードされます
2. インストールされた最新バージョンの Composer を開いてください
3. 通常通り RS-485 デバイスを通信させてください。RS-485 デバイスはユニークアドレスを振ってある必要があります。(ロータリーエンコーダーもしくは Dip スイッチにて設定可能です)
4. 既に RS-485 デバイスの設定もされているサイトファイルをお持ちの場合、それを開き 6 に進んでください。お持ちでない場合アップグレードする RS-485 デバイスの入ったサイトファイルを作成してください
5. **Hardware Hardware→Upgrade Firmware** を選択してください
6. RS-485 デバイスが紐づいているユニットを選択し Upgrade ARCs を選択してください
7. RS-485 デバイスを選択し **Upgrade Firmware** ボタンを押してください
8. 適切なファームウェアを選択し、'Open' を押してください
9. RS-485 デバイス毎に 7-8 の手順を繰り返してください。他のユニットに RS-485 デバイスが接続されている場合 6-8 の手順を実施してください

### 方法 2 - システムマネージャーを使用

1. Composer 5.6 をダウンロードしてください。ダウンロードすると必要なファームウェアも同時にダウンロードされます
2. インストールされた最新バージョンの Composer を開いてください
3. 通常通り RS-485 デバイスを通信させてください。RS-485 デバイスはユニークアドレスを振ってある必要があります。(ロータリーエンコーダーもしくは Dip スイッチにて設定可能です)
4. **Hardware Hardware→System Manager** に進み、**Hardware** タブを開いてください。必要であればネットワーク設定を変更し、ユニットを発見してください
5. RS-485 デバイスを接続しているユニットを選択し、プロパティを開いてください
6. **RS-485 Remote Control** タブを選択してください。アップグレードしたい RS-485 デバイスを選択し **Upgrade Firmware** ボタンを押してください
7. 適切なファームウェアを選択し、'Open' を押してください
8. RS-485 デバイス毎に 6-7 の手順を繰り返してください。他のユニットに RS-485 デバイスが接続されている場合 5-7 の手順を実施してください

## V) 以前の Composer サイトファイル更新の際の注意事項

バージョン 5.6 ではサイトファイル(.symx file) フォーマットが以前のバージョンとは異なります。バージョン 5.6 で以前のバージョンで作成したサイトファイルを開くことは可能です。

しかし、バージョン 5.6 で作成したサイトファイルに関しては、以前のバージョンの Composer では開くことができません。開けた場合も一部機能が正常に動作しない可能性があります。

もし PC にバージョン 5.6 と以前のバージョンを共存させる場合、ファイルフォーマットの違いを最小限に収めるため、下記の手順を推奨します：

- A) 以前のバージョンで作成したサイトファイルのバックアップを取っておく
- B) バージョン 5.6 のサイトファイルの名前を以前のバージョンのものと差別化して保存する
- C) ソフトウェアをインストールする際にデフォルトのロケーションを変えておく
- D) バージョン 5.6 ソフトウェアを以前のバージョンのファームウェアの機器と接続しない

### A) バックアップファイル保存の推奨

最新の Composer 5.6 をインストール、もしくは使用する前に、前バージョンのサイトファイルを保存しておくことを推奨します。保存しておくことで以前のセッティングを復元することが可能です。

※注意

一度 Composer 5.6 でサイトファイルを保存、上書きすると以前のバージョンでは開けなる可能性がございます。

### B) バージョン毎に異なったサイトファイル名をつける

もし PC 内に複数バージョンの Composer をインストールしている場合、サイトファイルの保存を行う時にバージョン表記をしておくことを強く推奨します。これによりバージョン毎の混同がなくなります。

両バージョンのソフトウェアを使用する場合も、サイトファイルを 5.5 にコンバートし、使用に慣れるまでは上記手順にてバージョン分けすることを推奨します。

### C) ソフトウェアインストールの保存ロケーション設定

Composer ソフトウェアをインストールする場合、サイトファイルの保存ロケーションを選択しておくことで複数のバージョンのソフトウェアを使用していても、ファイルが混じらず分けることができます。

### D) ソフトウェア-ファームウェアバージョンの同期

ソフトウェアとファームウェアは正常に動作するには同じバージョンである必要があります！バージョンが異なる場合、このリリースノートの手順に従いバージョンを合わせてください。バージョンアップはどのバージョンのファームウェアであれ可能です。

## VI) Dante ネットワークのモードの切り替えについて

DSP ユニットの Dante mode が Switched port に設定されている時に、ケーブルが Redundant 接続 (Primary から Primary、Secondary から Secondary へ計 2 本接続) された場合、Dante モードの変更の失敗や、オーディオの損失が発生することがあります。

モードを変更する場合は下記の手順を参照してください。

接続方法によって 2 種類の手順があります。

### A - ネットワークスイッチを使用、もしくは 2 台の DSP ユニットのみをダイレクトに接続する場合

1. Dante ポートの接続は Primary ポートのみを使用してください。  
ネットワークスイッチを使用せずに 2 台以上の DSP ユニットが接続されている場合は、下記デジチェーン接続の場合へ進んでください。
2. Composer 内で、Tools→ Dante Flow Manager→Configure Dante メニューに進んでください。  
“Redundant Network” もしくは “Switched Port” から変更したい設定を選択してください。
3. ファイルを Push しオンラインにしてください。  
Dante の内部設定を変更しているため普段よりも少し長めに時間がかかります。
4. 接続されている DSP ユニットの電源を落としてください。
5. 新しく設定したモードにあった配線を行ってください。  
Redundant Network に設定した場合は 2 台の DSP ユニット間で Primary と Primary、Secondary と Secondary を接続してください。ネットワークスイッチも分ける事ができます。
6. DSP ユニットの電源を入れてください。
7. 再び Push しオンラインにしてください。

### B - デジチェーン接続の場合

1. 2 台の DSP ユニットの Primary ポート同士のみで接続してください。  
複数台ある場合は最初に接続されている 2 台のみで接続してください。
2. Composer 内で、Tools→ Dante Flow Manager→Configure Dante メニューに進んでください。  
デジチェーン接続は Switched モードのみの対応なので “Switched Port” に設定してください。
3. DSP ユニットが複数台ある場合はサイトファイル内で最初に接続されている 2 台のユニットのみを有効にしてください。  
(デザインビュー上で接続されていない DSP を右クリックし Disable Unit を選択します。)
4. ファイルを Push しオンラインにしてください。  
Dante の内部設定を変更しているため普段よりも少し長めに時間がかかります。
5. DSP ユニットが複数台ある場合は 2 台目の機器を取り外し、3 台目のユニットの Primary ポートから最初に接続されている DSP ユニットの Primary ポートに接続してください。
6. 3 と同様にサイトファイル内で接続されている DSP ユニットのみに有効にしてください。
7. 再びファイルを Push し機器をオンラインにしてください。
8. 全ての機器に 5-7 と同じ設定を行ってください。
9. DSP ユニットの電源を落としてください。
10. 全ての DSP ユニットの電源を落としてください。
11. DSP ユニットの電源を入れてください。
12. 全ての DSP ユニットの電源を入れてください。

※各 DSP ユニットの Dante ネットワークモードはフロントパネルから確認する事ができます。

**AUDIO**  **BRAINS**

**株式会社オーディオブレインズ**

〒216-0034

神奈川県川崎市宮前区梶ヶ谷 3-1

電話 : 044-888-6761

**AUDIO**  **BRAINS**